

今月の安全運転管理

冬道も 備えあれば 憂いなし

①冬道の安全運転を指導しておこう

- スリップしやすい場所での運転方法を指導しよう
- 事前の準備を徹底させよう

②対高齢者事故防止をすすめよう

- 道路横断中の高齢者に注意を払おう



スリップ事故防止を指導しよう

冬道はスリップしやすいため、慎重な運転が求められる。

スリップしやすい場所としては、日陰や橋の上、トンネルの出入口などがあります。こうした場所を走行するときは、その手前での十分な減速を指導しておきましょう。

あわせて十分な車間距離の保持、急ブレーキや急ハンドルといった「急」のつく操作をしないことも徹底させてください。

また、気温が低くなる夜間や早朝は、昼間に溶けた雪などが夜間の冷え込みで再び凍結するおそれがあります。早朝や夜間に運転するときは、凍結を予測していつも以上に慎重な運転をするように呼び掛けておきましょう。

事前の準備をしっかりと行おう

大雪による立ち往生が頻繁に報道されています。こうした不測の事態に備えて、冬場に運転する前には、しっかりと準備をしておくことが大切です。

まずは、経路上の天候を確認しておきましょう。降雪や積雪が予想される場合は、スタッドレスタイヤを履いていても、チェーンを搭載させてください。

また、万が一立ち往生に遭遇してしまったときに備えて、食料や防寒具等の準備をしておきましょう。

冬場は暖房の使用等で燃料の消費量が多くなりますが、近年ガソリンスタンドが減少傾向となっていることから、燃料の補給が思うようにいかないケースがあります。

早めの給油を心掛けるようにアドバイスしておきましょう。

二月は道路横断中の高齢者の死亡事故が多発!!

愛知県警が過去五年間（令和元年～五年）の死亡事故を分析したところ、同期間における二月の高齢者（六十五歳以上）の死者は三十二人で、そのうち半数にあたる十六人が歩行者でした。

また、事故類型別にみると、十二名が道路を横断する際に亡くなっています。

高齢者は、身体機能の衰えなどから、近づいてくる車に気がついていない可能性がります。

高齢者を見かけたときは、自車に気づかず、道路を横断してくることを予測して、その動きに注意を払うように指導しておきましょう。

特に横断歩道や交差点の付近では、高齢歩行者の横断を予測して減速を徹底するように呼び掛けてください。